

紙・段ボール産業をよくする役員セミナー

連合前会長 笹森氏 特別講演



とても分かりやすい講演でした

第十回紙・段ボール産業をよくする役員セミナーが十二月十三〜十四日、パ連合から三十八名、紙業をよくなる役員セミナー「航豊橋」で開催され、紙師・新聞記者を含めて総勢八十二名が出席した。

開会に先立ち、紙加労協・中村議長、紙パ連合・自念副委員長からそれぞれあいさつがされた。

特別講演では、「労働運動・労働者福祉運動の理念・歴史を学ぶ」と題し、労働者福祉中央協議会・笹森清会長から、共感の得られる労働運動を大テーマとし、戦後労働運動の歴史とその変遷、時代に合った運動の基調などを、事例を取り上げ

労働運動の原点を歴史に学ぶ

ながら講演がされた。その後、講演の内容を参考にしながらいま自分たちが必要とすべきことは、二日目の工場見学では「マに、グループに分かれて分科会を行い、意見を交換をした。

二日目の工場見学では、異業種の「横浜ゴム・新



するどいまなざしで講演を視聴される参加者のみなさん

紙・段ボール産業をよくする役員セミナースケジュール

- ◎12月13日(土)
 - 12:30 受付
 - 13:00 開講式: 紙加労協代表あいさつ: 中村議長
紙パ連合代表あいさつ: 自念副委員長
 - 13:30 特別講演:
「労働運動・労働者福祉運動の理念・歴史を学ぶ」
労働者福祉中央協議会 会長 笹森 清氏
 - 15:00 休憩
 - 15:10 グループ討議
 - 16:30 休憩
 - 16:40 発表(各グループ5分程度)
- ◎12月14日(日)
 - 8:30 バスにて工場見学へ出発
 - 9:45 横浜ゴム(株)新城工場見学
 - 11:30 閉講式: 閉講あいさつ: 紙加労協・本間副議長
 - 12:30 移動・解散

城工場」を見学した。紙パ産業同様に連続採掘ということで、参加者

私たちは工場環境や作業などを熱心に見学した。最後に、紙加労協の本間副議長から工場見学の感想をお礼と今セミナーの感想等が述べられ閉会した。

中心とした環境問題についての討議が交わされ、パネルディスカッションの問題提起としてたいへん良い質問になったと思えました。

今後の活動計画としては「アラート(警告)とアクション」「グローバル枠組み協約締結の追求」「フィンランド労働組合が援助するプロジェクトの調整」「途上国の労働組合の支援・擁護」が活動の四つの柱として確認されました。具体的にはICEM産業部会メンバーリストをベースとして情報の発信を行い対話していくことであり、会議参加者全員が登



世界各国から総勢120名の方が参加されました

録を行いました。しかし、国際的なメンバーングによるアラートは言語の問題など難しい面もあり、決するシステムが定着しませんでした。

また、残念だったのは今回の部門会議が南米であった為、その速さからかAP地区のアジア圏からの参加は日本、インドネシア、マレーシアと少数であったことです。東アジアについては今後の世界の製紙産業を考えるうえで重要な地域と言えますがその情勢については会議では触れられませんでした。世界会議であるからには、アジアの情勢についても取り上げる必要があるのではないかと感じました。今回、開催されたウルグアイは広大な南アメリカのなかでも面積は小さく、人口は三百万人という小国でありました。現地の風景は土地が平らな荒地と、緩やかな丘が広がっており、草原が多く馬や牛が放牧されているのが目立ちました。国の主要産業は農牧業が中心だろうなという印象でした。

会議が開催されたペリアポリスは海岸沿いの高級別荘地といった美しい町で、日本では見られない大西洋の海には、しっかりと触れてきました。ただ、北半球の星空を見るのを忘れてしまったこと(三菱製紙労働組合中央執行委員長 山本康史)

とは残念でした。入国に際してはほとんどフリーパスでしたが、出国の審査が厳しく英語が話せないというだけで、徹底的な荷物の検査を受けました。怪しい東洋人が何をしに来たのかと思われたのかもしれないが大変な目にあいました。

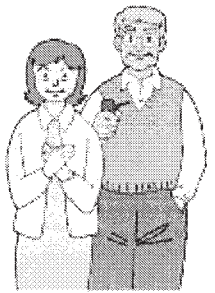
日本からの直通便はなく、アメリカ経由で約三十時間かかるのはさすがに大変でしたが、このような機会がないと日本人が行くことはまず無いと思われるので、大変貴重な経験をさせてもらいました。

パピルス年金共済室

「一時払い積み増し」1月31日まで

パピルス年金・月払い加入者の皆さん、一時払い積み増しの申し込み締切日が近づいてきました。次の要領にて手続きをお願いします。

- 申し込み期限
1月20日(火)～
1月31日(土)までです。
- 申し込み方法
一時払い積み増し専用の用紙で、ゆうちょ銀行より送金してください。



フリーダイヤル 0120-47-7117



▼先日、池に大量のウオーターレタスが繁殖し、駆除が問題となっているとの

テレビニュースを見た。野菜のレタスのイメージを浮かべ興味を持って見ていたところ、熱帯アフリカ原産の水草で繁殖力がすごく、厄介者になっているという。本来であれば熱帯性の植物であり日本の冬は越せないはずだが、最近になって越冬が出来るようになってきていること、こんなところにも地球温暖化の影響が出てきている。▼この

ところ我々の生活を脅かすような異常気象が世界的に頻発している。七月に開催された洞爺湖サミットにおいて二〇五〇年までに世界全体の温室効果ガスの排出量を少なくとも五十%削減するという認識で一致したとの報道があった。地球温暖化への早急な対応が必要となっている。▼紙パ産業においても環境問題について信頼回復に向けたさまざまな諸施策がとられているが、植林事業等の更なる強化による温室効果ガス削減への協力・努力も信頼回復につながる大事な取組みではないかと考える。(東北地本・横山書記長、日本労組・岩沼)